

# KLIS TODAY

No.  
16

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162  
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

## クラス連絡会代表者を経験して

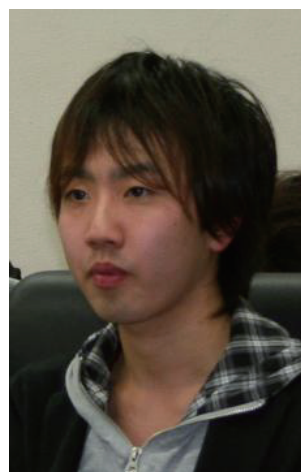
古谷 遼平

私が知識情報・図書館学類クラス連絡会代表者会議（以下クラ代）という存在を知ったのは、入学式翌日のオリエンテーションのときでしたが、この説明の段階では入ろうとは思っていませんでした。その後クラスに分かれてクラ代選出の時間になりましたが、誰も手を挙げる人がいませんでした。周りにいた友だちと「誰もいないならやってみようか」ということで軽い気持ちで入りました。クラ代とはどんな組織なのかちゃんと知りませんでしたが、いざ入ってみると活気があり、明るい雰囲気でもとても馴染みやすかったです。

クラ代の活動は主に春日の生活の改善をすることです。クラス連絡会、食堂業者との意見交換会、目安箱への回答など仕事内容は様々です。最も大きな行事はクラス連絡会です。学生の意見をまとめ、要望、提案、活動報告などの形で教職員の方々と意見交換をする場です。学生へのアンケート調査や事前の実態調査など準備に時間がかかり大変ですが、とても充実しています。やることが多くて大変な時期もありますが、クラ代内の仲間と楽しい時間を過ごせて、先生たちや支援室の方々との交流もでき、筑波大春日エリアのことをより深く知ることができました。

これを読んで少しでも興味をもちましたら、ぜひ入ってみてはいかがでしょうか。

（ふるたに・りょうへい 知識情報・図書館学類2年次）



クラス連絡会で議長を務める古谷さん



## 図書館情報学若手の会ALISの近況

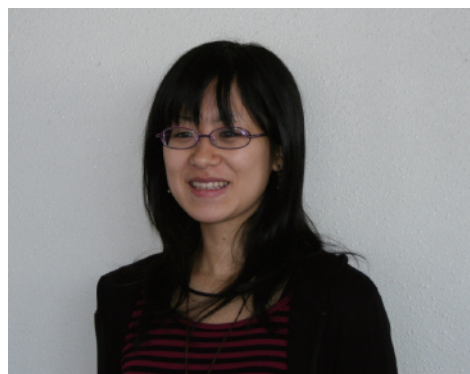
有元 よしの

図書館情報学若手の会ALISは、図書館情報学に関わるすべての人の交流の機会となることをめざし、2010年6月から活動を行なっています。ALISは現在、大きく分けて二つのイベントを軸に活動を行なっています。ひとつは、以前にも本誌に掲載しましたが（No.12）、参加者による5分程度のショートスピーチと、ディスカッション、懇親会で構成される定例会というイベントです。また何ヶ月かに1回、このあと次のページで紹介される出会い系図書館のイベントなど各種イベントを開催しています。昨年2月には、ALIS with Lifoというイベントを行いました。これは図書館情報学を学ぶ学生と図書館で働く社会人との間で、「図書館について学ぶということはどういうことか」「図書館情報学が図書館で働くことにどう活かされるか」という問いかけを少しでも解決しようという意図で、開催しました。獨協大学図書館を見学した後、ショートスピーチやディスカッションで学生と社会人が混じって自由に話し合いました。

また、大学図書館の見学と、学生スタッフとの交流を行いました。その他にもSLiicCという学校図書館系の団体と、現職者の皆様に「読み聞かせ」「アニメーション」「ブックトーク」を実演していただき、その後にグループでブックトークの作成を行うというイベントを開催することで、図書館の学生ボランティアや、学校図書館の関係者という、新たな層への働きかけをいたしました。

1年半近くALISを続けてみて、様々な発見や、出会いがありました。今後ALISをどのように運営していくか、どういう風に展開していくかについては、悩みも多いところではありますが、「図書館情報学の世界に新しい風を」を合言葉に、これからも図書館情報学に関わる活動を行なっていけたらと思っています。

（ありもと・よしの 図書館情報メディア研究科博士前期課程1年）



Lifo との協賛イベントでの  
社会人との対話



第4回定例会でショートスピーチに  
聞き入る参加者たち

# 「出会い系図書館プロジェクト」について

小林 映里奈

「出会い系図書館プロジェクト」は、本と人がつながり、人と人とがつながる、そんな出会いのある図書館をつくりたいというコンセプトで、図書館での出会いについて考える企画です。図書館はただ本が置いてあるだけの場所と思われがちですが、私たちは、図書館とは様々なサービスを提供している、人が来る「場」と考えています。図書館において重要な本と人との二つの要素のうち、人という要素をいまの図書館よりも強めたイメージの図書館が、出会い系図書館です。

図書館情報学若手の会ALISを土台として活動を行っており、2011年8月17日に第1回のイベントを開催させていただきました。このイベント「出会い系図書館かふえ」は、図書館における人のつながりやこの出会い系図書館プロジェクトの活動に興味をもっている人を集め、その実現方法についてグループ別にディスカッションするという内容でした。これまでこのようなイベントに参加したことはありませんでしたが、今回が主催としては初めてのイベントで、人があつまるかどうかが、問題がおきないかと当日まで不安がたくさんありました。ですが、神保町のカフェを会場として当日はアットホームな雰囲気が進み、深い議論ができたと感じました。その後も2011年11月9日～11日、横浜で開催された第13回図書館総合展でポスター発表をするなど、活動を展開しています。

出会い系図書館プロジェクトはもっと図書館が楽しい場所になれることをめざして、これからもさらに活動を続けていきます。今後もたくさんのイベントを開催しながら、出会い系図書館の考え方について多くの人に知ってもらい、議論を深めてもらえれば嬉しいと思います。

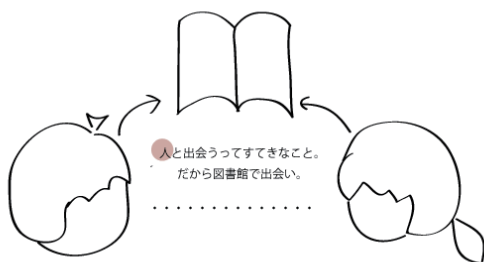
(こばやし・えりな 知識情報・図書館学類3年次)

## 出会い系図書館、はじめました。

あらゆる出会いは新鮮さと驚きに満ちていて、とても楽しいものだ。

### 出会い系図書館プロジェクト

実際の図書館における利用者同士のつながりをつくることための方法を考え、図書館利用者同士のつながりをつくるために必要なひと、もの、サービスについて検討・提案します。図書館がより楽しく使えるように、を目指して人と本が集まる「場」としての図書館の役割について考えていきたいと思います。



### 第一回「出会い系図書館かふえ」

つながりをつくることに興味があるひとたちで集まってお話ししてみませんか、の会。図書館でつながりができることで、なにが変わるだろうか。どんな意味があるだろうか。人と人が出会うたのしさはどういうものだろうか。語りましょう。そしてここで生まれたわたしたちのつながりを、今後の活動につなげていくことができれば嬉しいです。

出会い系図書館の案内



図書館総合展での出会い系図書館のポスター

## 知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞

2011年9月13日・14日、肱岡浩大さんと大原司さんに「知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞」が贈られました。知識情報演習Ⅰは図書館情報学の基本的な考え方を学びながらシステム構築技法を習得する科目です。お二人には受賞した感想を書かせていただきました。

### ユーザビリティの重要性を痛感

肱岡 浩大

OPACシステムを作成するにあたり、一番工夫した点は、利用者にとって使いやすいシステムを作るよう、システムの機能やページのレイアウト等を考えたことです。実際に様々な機関のOPACを利用してみて、例えば検索結果のページでは続けて条件を変えた検索を行えた方が便利です。そういった自分が使いやすいと感じたことを参考にしながら、作成していきました。

私が作成したOPACのオリジナリティは、条件指定検索において検索専用のテーブルを作成したことです。複数のテーブルを用いた検索を行うとかなりの時間がかかったため（私のやり方に問題があったかもしれませんが）、検索にひとつのテーブルを用いることで、スムーズな検索を可能にしました。また、不正な入力があったとしても操作できるのは、検索用テーブルのみとなるため、予期せぬ入力による損害は少なく済むと思います。

OPACに限らずすべての検索システムに言えることですが、システムには必ず利用者がいて、ユーザビリティについて考えることは必須だと感じました。HTMLの知識が乏しくセンスもないため、まともなWebデザインを行えなかったのが心残りです。

（ひじおか・こうだい 知識情報・図書館学類3年次）





## 試行錯誤のプログラム作成

大原 司



実習中にあたえられた課題のレベルには、初級、中級、上級と段階がありましたが、それらを満たしただけのOPACは検索機能などの使い勝手があまり良くありませんでした。そのため、できたものを実際に自分で使ってみて、どうしたら使い勝手が良くなるだろうかと試行錯誤しながら、課題とは別に自分なりの工夫を凝らしました。

一番力を入れたのは、複数語の検索において、AND検索だけでなくOR検索も行えるようにした点です。当初はAND検索とOR検索を両立させず、チェックボックスを用いて使い分けるようにしていましたが、OR検索しか行えない状態では、条件が増えるたびに結果の候補が増えるだけになってしまい、あまり意味がありませんでした。そのため、両者を複合して、スペースによって単語と単語を区切る際に、orという文字を挿入するとそれらの2語をOR検索、そうでない単語の組はAND検索として実行するようにしました。

また、検索条件の入力ページと簡易的な検索結果の表示プログラムを一体化したことも、今回行った工夫のひとつです。このことで、検索条件を継続して表示しつづけることができるようになったほか、複数回の検索を行う際にそのつど検索用のページに戻ることはなくなりました。

ほかには、OPAC表示画面の色使いや構成にも試行錯誤しました。見やすさや使いやすさに気をつけて、落ち着くデザインになったと思います。

このような工夫のために多くの資料を調べたことで、自分のできることが増えたと感じています。今回得た知識を活用して、また新しいプログラムを作っていきたいです。

(おおはら・つかさ 知識情報・図書館学類2年次)

and と or を組み合わせた検索の実行画面

## 近未来書籍空間のフォトアルバム

2011年10月10日、雙峰祭（筑波大学学園祭）で、本学類の宇陀研究室・松村研究室と附属図書館の学内研究企画「近未来書籍空間」が、2011年度最優秀企画賞を受賞しました。以下は、学園祭当日の様子です。



近未来書籍空間への入り口



おえかきコーナー



「これってなあに？」



ポップしおりとブックカバー



マスコットキャラクターの  
がまじゃんぱー



トロフィーを受け取る  
がまじゃんぱー



## “図書館学校”創設90周年— 知識情報・図書館学類の遠い歴史

気谷 陽子

知識情報・図書館学類の歴史を遠く遡ると、大正10（1921）年6月に日本初の常設の司書養成機関として創設された文部省図書館員教習所までたどることができます。平成23（2011）年は創設90周年にあたり、本学の学園祭、雙峰祭開催期間中の10月9日、ホームカミングデーに合わせ、図書館情報メディア研究科、情報学群知識情報・図書館学類、茗溪会支部図書館情報学橋会の主催により、90周年記念行事が開催されました。

記念行事は、記念式典、記念講演会、記念展示からなり、記念式典では最初に、植松貞夫図書館情報メディア系長の挨拶の後、西野虎之介茗溪会理事長が祝辞を述べられました。続いて、図書館史の専門家の寺田光孝名誉教授による「図書館員教習所より90年の歴史を振り返って」と題するショートスピーチがありました。

記念講演では、作家で前日本ペンクラブ会長の阿刀田高氏（図書館職員養成所修了者）による「読書と知識～生きる喜び～」と題する記念講演会と、阿刀田氏夫人の慶子氏による朗読が行われ、150名の参加者が聞き入りました。卒業生、在学生、教職員、地域の方々などから感銘を受けたという声が寄せられました。

また、記念展示「知識情報とメディアの世界」は、白井哲哉准教授と原淳之助教の企画により、図書館情報学図書館のメディアミュージアムを会場にして、10月3日から10日まで開催されました。知識情報・図書館学類の学生が、会場の設営やパネルの作成に活躍しました。記念展示は「第1部：さまざまな書物と情報メディアの世界」と「第2部：知識情報と図書館の学び舎」の二部で構成され、附属図書館の所蔵する貴重書が多数展示され、観覧者に変好好評でした。

（きたに・ようこ （社）茗溪会支部 図書館情報学橋会 理事）



記念展示ポスター

## 90周年記念行事の様子



挨拶する植松貞夫図書館情報メディア系長



ショートスピーチする寺田光孝名誉教授



講演する阿刀田高、日本ペンクラブ会長



観覧風景



第1部展示「メディアの発展、古代から現代へ」



第2部展示「知識情報と図書館の学び舎」